EARTH RAISE

アースレイズ通信

日本の住環境を良くしよう！と想いのあるつくり手の方々にエールを送る情報誌です。

第８号
2022.09
Octorber

地盤屋の主張 VOL.3

前回は一般的な住宅地盤調査は土質が推定であることの問題について説明しましたが、今回は、水位についてです。

地盤調査での水位をみなさん気にしていますか？

水位確認は、改良工事が必要な場合にも工法の選択に影響したり、砂地盤の場合には深度によっては液状化の可能性が増したりします。
殆どの地盤調査会社さんは、水位測定はデジタルの水位計を使用しているようです。
弊社もいろいろな測定器を試しましたが、SWS試験の試験孔はロッドを引き抜くときに崩れる事が多く水位計での測定が困難な場合がほとんどです。

アースレイズは土質確認の為にハンドーオーガーを最大で5mまで行うので、その試験孔にて水位を測ることができます。
中には未だにロッドの引き抜き時にロッドを観察して大体これぐらいかな？と調査員の判断に任せている地盤会社もあります。
土質も推定？水位も推定？では正確な地盤解析が行えるはずがありません。
家造りも地盤調査・解析も手間を惜しんではいけないと言う事ですね。

▲孔内水位の確認（実際に孔内へ水位計を入れて確認）

▲使用する水位計測器

工務店訪問記 VOL.5

鹿児島県 | 鹿児島市

IKIYA-SOOBOU

株式会社 粋家創房 ikiyasoobou

株式会社粋家創房
代表取締役　冨ヶ原陽介様

アースレイズ西日本支店・吉永支店長と筆者は、鹿児島空港からレンタカーで粋家創房様へ向かった。ナビに導かれて走る道路はだんだん細くなり、どんどんと山の中へ。本当に粋家創房さんのところに着くの？と少し不安になるも、たどり着いた粋家創房さんは緑豊かな広大な敷地に佇む避暑地の別荘のような、コテージのような。まず、心がスーッと軽やかになったのを覚えています。そして気持ちのいいオフィスで、冨ヶ原社長様にお話を伺いました。

社名への想い

なぜ社名を「粋家創房」とされたのですか？

息子が生まれた時に「粋（スイ）」と命名しました。これは粋の旧文字ですが、粋という言葉が好きなんです。息子には多様性があり矜持を持った粋な男でいて欲しい。その願いから命名しました。会社名を粋家創房にしたのは、**息子の家を建てるつもりでお客様の家をたてよう！**と決めたからなんです。

粋家創房設立以前は何をされていましたか？

以前はハウスメーカーにもいましたし、商業設計や不動産のことも学びました。家づくりに必要なことは一通り学び、経験を積んで知識も身につけました。まあ、修行期間ですね。初めから建築会社を作るという目標を持っていましたので。

理念とビジョン

粋家創房の企業理念はなんですか？

企業理念は**「地域と共に」**です。

家づくりを通して地域の文化や風土を継承・発展させること。そのキーワードは衣食住。根底にある姿勢は温故知新。つまり、これを鹿児島という地域に広めて行きたいですね。ですから、地元鹿児島の職人さんたちが一手間かけて作る道具や洋服、地酒などを販売するセレクトショップ「マザルバギフト」と地産地消にこだわった「マザルバカフェ」も展開しています。

▲マザルバギフト

▲マザルバカフェ

理念を実践するための必然的なショップですね！

筆者：先ほどショップとカフェを見学させていただきましたが、どちらも本当気持ちのいい空間ですね。見込客づくりのための集客装置としてショップを作る工務店さんもいますが、その匂いを全く感じませんでした。まさに「地域と共に」という企業理念をスマートに自然にされているのだな、と感じました。

ありがとうございます。まさにその通りで、私たちにとっては必然的な展開なのです。

アースレイズとの取り組み

アースレイズとの関わりは何でしたか？

粋家創房はもともと全棟構造計算をすることをお客様に約束していますが、この構造計算を柔軟に対応してくれる仲間を探していました。そんな時、信頼できる九州の工務店の元社長さんからアースレイズを紹介していただいたのです。

アースレイズのお話をお聴きしたり WEB を見せて頂き、地盤調査もやられいることを知りました。それは今までとは全く違うやり方であり、地盤改良ありきの地盤調査というマッチポンプを否定し、本当に安全な家を建てることを目的とした理念とその内容にとても惹かれました。

構造計算においても、私は以前から建築基準法上の計算や簡易計算などは、数字としての根拠が薄いと感じていました。ですから住まいがしっかりした強度であることを数字としてお客様に提示したかったのです。

▲施工事例（外観）

▲施工事例（内観）

なぜ数字にこだわるのですか？

例えば、弊社は 10 年、20 年先も存続していると思いますが、30、40、50 年後にあるかどうか？きっと私はそれを見届けられない。でも、私たちが建てたお施主様の家はずっと存在しているでしょう。その時にお施主様が“この家はどうなっているんだろう？まだ大丈夫？”と思った時に、どんな家なのかを明確にする必要があるはずです。これが数字にこだわる理由なのです。

アースレイズの地盤調査、構造計算、そして基礎工法、どれもが粋家創房の想いと重なりますし、良きパートナーとしていい家づくりをご一緒したいと思います。

取材を終えて

確かな住宅性能にこだわる粋家創房様。まさにそれは地域の文化と風土の継承・発展に寄与するものだと感じました。過去の風習が悪いものであるならば正し、大切なものは育てていく。それが温故知新・粋家創房・冨ヶ原社長の頭の中はきっとこんな感じ！右のイラストにしてみました。

取材：マーケティングプロデューサー　早川大二

会社概要
社　名／株式会社粋家創房
所在地／〒899 - 2704 鹿児島市春山町 1636-9
TEL：099-278-7003　FAX：099-278-7004
ＷＥＢ／https://www.ikiyasoobou.com
代表取締役／冨ヶ谷陽介

業務内容／●住宅・店舗の設計、施工、管理 ●住宅･店舗のリノベーション インテリアコーディネート ●オーダーキッチン・家具の設計、製作 ●マザルバギフトの運営 ●マザルバカフェの運営

EARTH RAISE KAGOSHIMA

アースレイズ鹿児島 突撃取材

今回はアースレイズ鹿児島をご紹介。
課長の中野利也様にお話をお伺いしました。

生年月日：1958年12月15日
趣　　味：磯釣り（特にメジナ。メジナとの駆け引き面白いそうです！）
特　　技：家庭菜園（いつかダチョウも飼いたい！らしい・・・）
長　　所：人見知りしない。順応性がある。
短　　所：飽きっぽい
座右の銘：他人を責める前に、まず自らを強く責めなければならない。

なぜアースレイズに参加されたのですか？

アースレイズ鹿児島は 2022年５月に事業を開始しました。参入のきっかけは古澤社長のお話を聴いて感銘したからです。「今までの地盤調査は改良ありき」、これはおかしい！それが分かりました。これは今までこうだったからこれからもこうだ、というよくある思い込みの習慣です。ここに一石を投じるアースレイズは素晴らしいと思いました。今までの地盤調査とアースレイズの違いを理解することができました。

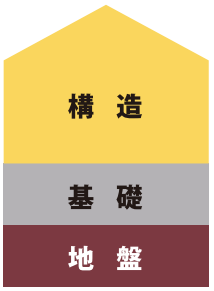
今後、地盤調査に注力されることは？

鹿児島はシラス台地（火山灰が堆積してできた土壌）なので比較的地盤はしっかりしています。ですので、地盤改良の必要性は極めて低いのですが、改良する場合も少なからずあります。アースレイズの手掘りのハンドオーガーを活用し、的確な地盤調査をし、正しいエビデンスとしてお施主様に提示し、無駄な地盤改良を減らして行きたい。地盤調査というものを根底から変えて行きたいと思います。

構造計算や KJS 工法にも力を入れられるとお聞きしていますが？

その通りです。安全な住宅を建てるには、地盤も大事ですが、構造も基礎も重要です。構造については４号特例により耐震性がしっかり担保されているとは言い難い。また、基礎についても一般的には異常なほど基礎を強化するため、地中梁が大量に使われ無駄な作業、無駄なお金が使われています。

アースレイズは、構造、基礎、地盤、この３つを的確にバランスよく保つ家づくりになるので、これこそ正しい家づくりだと確信しています。



どれも手を抜かない
どれも過剰にしない
どれも無駄は省く
そして全てを
トータルに併せ持ち
本当に安全な家を建てること

筆者談

中野課長は家づくりに精通されている方で経験も豊富。ですので、アースレイズの理念や実際の業務内容に対し、素直に真摯に共感と理解を示されているな、と感じました。
また、スタート当初からもう１名スタッフが加わり、２名体制に。真剣に取り組んで行こうとされる確固たる意志を感じました。
取材中、中野課長はずっと熱く語ってくださいましたが、時折見せる笑顔に親近感を感じました。熱い想いとその笑顔で、正しい家づくりの作り方が多くの方が理解されることでしょう。

◀２名体制で頑張ります！
（中野課長と永田さん）

良質住宅指南

株式会社アースレイズ　一級建築士　北村 健治

本当に安全で安心できる家づくりのポイントを構造・基礎・地盤の三方向から解説します。

構　造
基　礎
地　盤

第７話

４号特例がやっと廃止に！

ここ最近、木造住宅を建築する基準が大きく変わろうとしております。長期優良住宅の認定基準、建築基準法第６条第１項の見直し等です。長期優良住宅の認定基準の一部は 2022 年 10 月から始まります。アースレイズとしては､この改正は「やっと始まるな」と思っております。今回は影響が大きい見直しを３つを取り上げます。また、改正に関する動画が公開されておりましたので、そちらも併せてご確認ください。

１◎長期優良住宅における省エネルギー対策が強化

現行では「断熱等性能は住宅性能表示の等級4、一次エネルギー消費量性能は無し」ですが、改正案では２０５０年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて、住宅の省エネルギー性能を向上させることが必要となりますので、**省エネの基準をＺＥＨ相当の水準に引き上げるべく「断熱等性能は住宅性能表示の等級５、一次エネルギー消費量性能は等級６」と改正**されます。

２◎壁量の構造安全性基準が整備

また、壁量の構造安全性についても長期優良住宅の断熱性能、省エネ性能を高めることになりました。それは**「断熱材や省エネ設備（太陽光パネル）等の設置による木造住宅の重量化に対応するため」**と**「安全確保」**のためです。見直し案としては、現行の住宅性能表示制度の「耐震等級３」で長期優良住宅の壁量基準となるようです。さらに建築基準法等も壁量基準が定められれば見直しされるそうです。

3◎建築確認審査の建物規模の見直し

次に建築基準法の改正としては、建築確認審査の対象となる建築物の規模（建築基準法第６条第１項）の見直しがあります。いよいよ**「平屋かつ延床面積 200 ㎡以下の建築物以外の建築物は構造によらず、４ 号が新２号となり、審査が必要」**なります。（審査書類はまだ検討中とのことです。）

構造に関わる私たちの立場としては、すでにＺＥＨ基準やそれを目標とした建物の許容応力度計算をしております。構造計算をしていると、耐力壁を多く必要とする建物が目立ちます。それは太陽光パネルが乗っていたり、乗せるための片流れ屋根、屋根断熱等、省エネ・断熱性能を高める建物が多いからです。今回、国土交通省と一般社団法人住宅性能評価・表示協会の資料、説明会の概要ですと、どちらも**「重量化した現在の建物、建物形状等と要求性能」と「壁量」のアンバランスを解消しようとしている**ことが、ひしひしと伝わってきます。仕様規定の限界、矛盾を感じます。**仕様規定ではなく、身近となりつつある許容応力度計算への移行を考え、許容応力度計算した建物の耐震等級の新設等も必要**と思う今日この頃です。

個人的には建設会社の皆様には「わが社は許容応力度計算による耐震等級３」と、しっかりお客様に伝えてもらいたいです。

この内容は YouTube で配信されておりますので、ぜひ一度ご視聴ください。

ご注意

上記の解説は公布前の情報をもとにまとめたものであり、公布後の内容によっては取り扱いが変更される可能性があることを予めご了承ください。

株式会社アースレイズのホームページはこちらから

株式会社アースレイズ

本　　社：〒331-0812　埼玉県さいたま市北区宮原町３丁目337-2
桜ガーデン宮原 2F（新社屋住所）
TEL：048-782-8783　FAX：048-782-8784
西日本支店：〒801-0004　福岡県福岡市中央区渡辺通2-6-12-802
八千代ビルYA55 8階
WEB　http://corp.earthraise.co.jp　E-mail　info@earthraise.co.jp

テクニカルメンバー
アースレイズ山形　アースレイズ信越・北関東　アースレイズ北陸　アースレイズ新潟　アースレイズ愛知　アースレイズ静岡
アースレイズ山陰　アースレイズ福岡　アースレイズ宮崎　アースレイズ鹿児島